

③4 東京発インフラツアー商品の開発 (南阿蘇観光未来プロジェクト：産学官の連携)

受賞機関 国土交通省 九州地方整備局
立野ダム工事事務所、南阿蘇村

キーワード インフラツアー、産学官の連携、地域振興化

全建賞審査委員会の評価ポイント

阿蘇といった観光資源と立野ダムを連動させたインフラツアーの商品化に向けて、跡見学園女子大学や旅行会社等と連携して企画・開発を行った取組み。インフラツーリズムに加え、防災ツーリズム、ジオツーリズムを体験できる内容となっており、マスコミの注目も高く、テレビ・新聞で大きく報道され、立野ダムを中心に「地域活性化」に大きな可能性を示す内容となっている点が評価された。

1. はじめに

立野ダムは、熊本市街部をはじめとする白川沿川の洪水被害の防止・軽減を目的とした流水型ダムで、平成30年8月に本体工事に着工し、早期のダム完成に向けて着実に事業を進めている。

一方、ダムを建設する立野火口瀬は、「阿蘇くじゅう国立公園」に位置し、ユネスコ世界ジオパークに加盟認定された地域であるため景観や環境に配慮した丁寧な事業の実施に努めている。

さらに阿蘇の豊富な自然環境の持つ観光資源と立野ダムを連動させたインフラツアーを商品化し、より多くの観光客を誘引し、地域振興に資することを目的に、南阿蘇村と立野ダム工事事務所「阿蘇・立野峡谷」ツーリズム推進協議会を設立した。



立野ダム位置図

2. 旅行商品の企画・開発

インフラツアーの商品化に向けては、「阿蘇・立野峡谷」ツーリズム推進協議会、「跡見学園女子大学」、「株式会社ジャルパック」等の産学官が連携して、「南阿蘇観光未来プロジェクト」を平成30年5月4日から始動し、立野ダムをインフラツーリズムの視点で地域の観光資源とともに連動させた旅行商品の企画・開発を行った。

企画・開発は、現地視察（3回）、企画会議（3回）

を重ね、取り組み状況から大きく報道されるなど、注目度の高さがうかがえた。さらにツアーの試乗等も行い、約半年の時間をかけ、平成30年11月3～4日にモニターツアーを実施した。

3. モニターツアーの実施

モニターツアーは、3つのツーリズムを南阿蘇で体験できるものとした。

1) インフラツーリズム

立野ダムの建設現場を国土交通省職員の解説付きで案内し、インフラツーリズムを体験した。

2) 防災・復興ツーリズム

南阿蘇村に残る熊本地震の爪痕見学や被災者の体験談を通じ防災・復興ツーリズムを体験した。

3) ジオツーリズム

阿蘇のカルデラがどのように生まれたのかなど、当地に伝わる伝説を、現地ガイドと学生が掛け合いで解説し、ジオツーリズムを体験した。



モニターツアーの状況

ツアーの案内は南阿蘇村や阿蘇ジオパークガイド等と連携した解説を実施し、立野ダムが洪水被害の軽減だけでなく、南阿蘇地域の魅力を更に引き出すことを伝えることに成功した。

4. おわりに

ツアー参加のお客様、地元のご協力頂いた皆様、ツアー関係者の皆様が笑顔になり、またお客様アンケートでも皆様から高評価を頂くことができ、また、ツアーにはマスコミも同行し、テレビや新聞でも大きく報道された。

本事業の成果を参考に、今後も立野ダムを地域の観光資源と連動させたインフラツアーの取り組みなど、立野ダム建設が熊本地震からの早期復旧・復興並びに将来に向けた持続的な地域振興の一翼を担えるよう様々な取り組みを今後も継続していく。